

事務事業名 市民（旧女性）大学講座補助事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：625

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090601-12-00
基本事業：	01	ニーズに応じた学習機会の充実	担当部	教育部
基本事業の成果指標	生涯学習講座の充足度 市公式ホームページ（生涯学習情報ページ）アクセス件数 生涯学習情報（市広報紙）利用割合		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和47年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
市民			女性の地位向上のため、地域婦人会において行う市民（旧女性）大学講座を支援するため、補助金を交付する。 【補助金交付の流れ】申請書提出 申請内容確認 補助金交付 実績報告 【市民（旧女性）大学講座の内容】生涯学習センター（館外を含む）、二日市コミュニティセンター、勤労青少年ホームにおいて、以下の事業等を展開。書道教室、ハワイアンフラダンス、社交ダンス、コーラス、日舞、洋裁教室、卓球、等 また、青少年支援事業として、「平成つくし『寺小屋』」を開催し、小中学生書道教室、そろばん教室を実施。							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか） 実用的なものから趣味的なものまで多面にわたる講座を開催し、その資質や能力が向上することにより、女性の地位向上につなげる。							
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標	
講座数		講座	27	19	27	27			40	
受講者数		人	130	121	300	300			400	
5. コスト										
事業費		計	千円	100	100	270	270			
		国	千円		0	0	0			
		県	千円		0	0	0			
		地方債	千円		0	0	0			
		その他 一般	千円	100	100	270	270			
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1					
正職員人件費		千円	803	792	773					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	903	892	1,043	270				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		講座の内容は、カルチャー的なものから、青少年健全育成支援、男性対象の講座も開設し、各種ニーズ、地域の活性化に取り組んでいる。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	あり	類似事業として、小地区公民館やコミュニティセンター等で開催している各種講座事業があるが、本事業は、女性の社会参画を目的としている事業であるため、その必要性は高いものと考えている。 また、若い世代の育成（青少年育成支援事業）に、力を入れている。 令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルスにより活動自粛があったため、例年よりも減額された補助金申請が行われた。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
婦人会としても講座生の増加を課題としており、令和元年度は自治公民館へパンフを配布するなど、講座生募集に力を入れている。引き続き支援を行う。										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）			備考・特記事項 or 進行管理欄							
昭和47年の中央公民館の開館に伴い、学習環境が整ったことを受けて、事業を開始した。			趣味講座に留まることなく、生涯学習の理念と社会的情報の提供。女性の地位向上とジェンダーフリーの視点で、教室リーダーを中心に学習を開催している。 青少年健全育成支援事業への力を入れている。							

事務事業名 自治公民館講座推進事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：633

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090602-13-00
基本事業：	01	ニーズに応じた学習機会の充実	担当部	教育部
基本事業の成果指標	生涯学習講座の充足度 市公式ホームページ（生涯学習情報ページ）アクセス件数 生涯学習情報（市広報紙）利用割合		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

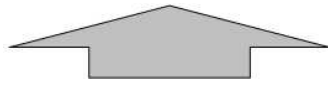
計画年度	平成07年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市民			自治公民館が実施する新規講座を対象として、1回4,000円（消費税別）〔1館につき4講座/年を限度〕の講師謝金を支出している。 【手続き】 自治公民館からの申込み 開設決定（審査） 講座の実施 報告書・請求書提出 講師謝金を支出						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			【講座内容】 教養、教育、文化、実用等の多種多様な講座を開催 【備考】 自治公民館連絡協議会で事業周知を行い、希望する自治公民館が各自問合せ・応募する。令和3年度は45講座を限度。						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標
講座開催回数		回	15	14	45	45			35
参加者数		人	239	297	640	640			500
5. コスト									
事業費		計	千円	66	61	198	198		
		国	千円		0	0	0		
		県	千円		0	0	0		
		地方債	千円		0	0	0		
		その他	千円		0	0	0		
一般	千円	66	61	198	198				
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費		千円	803	792	773				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	869	853	971	198			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		令和3年度の開催件数や参加者数は、昨年度を若干上回っているが、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年に比べ、伸び悩んでいる状況です。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	増加	類似事業	あり	類似事業として、コミュニティ主催事業があり、類似する講座も一部見受けられますが、当事業は、市民の学習機会の充実と合わせて、講座を主催する自治公民館の講座企画力向上とニーズの把握についても目的としているため、今後も継続して事業に取り組み、それぞれで広がりが期待される展開を行うことが必要であると考えています。令和3年度は、新型コロナウイルスにより活動自粛があったため、例年よりも申請が振るわなかった。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし						
成果向上余地	大きい								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）			改善方向性		維持 見直し 廃止 事業終了				
講座開催数の謝金限度は、平成30年度は40件であったが、令和2年度から45件へ増加している。今後も、自公連と各地域コミュニティ運営協議会との一体化事業として、公民館主催講座の開設を促進する。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）			備考・特記事項 or 進行管理欄						
市民の様々なニーズに応じた学習機会を提供することを目的として、自治公民館における講座開催に対する支援を実施している。									

事務事業名 みんなで学ぶ人権・同和問題講座事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：634

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090602-05-00
基本事業：	01	ニーズに応じた学習機会の充実	担当部	教育部
基本事業の成果指標	生涯学習講座の充足度 市公式ホームページ（生涯学習情報ページ）アクセス件数 生涯学習情報（市広報紙）利用割合		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和56年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
市民 行政職員 教職員			基本編としての「いきいき人権ライフセミナー」、実践編としての「学びをつなぐ講座」の2部構成で参加費無料の学習会を開催する。							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			いきいき人権ライフセミナー（基本編） 年5回、生涯学習センターを会場とし夜間に開催。 講師を招き、同和問題をはじめとする人権問題についてわかりやすく講義を行なう。							
人権問題の学習の機会を広く市民に対して提供するとともに、人権問題の学習に関わる地域の人材を育成する。			学びをつなぐ講座（実践編） 年7回、生涯学習センターを会場とし午前中に開催。 受講生の中から運営委員を選出し、自主的な運営を行う。							
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標	
受講者数		人	89	191	250	250			300	
5. コスト										
事業費		計	千円	51	101	140	140			
		国	千円	0		0	0			
		県	千円	0		0	0			
		地方債	千円	0		0	0			
		その他	千円	0		0	0			
一般	千円	51	101	140	140					
正職員人工数		人工	0.1	0.2	0.2					
正職員人件費		千円	803	1,584	1,546					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	854	1,685	1,686	140				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている	令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策を行いながら開催した。									
どちらかといえばあがっている	学びをつなぐ講座 過去の受講生から、人権擁護委員などの人権関連の人材が育っているが、受講生数は減少傾向にある。									
あがっていない（停滞・低下）	いきいき人権ライフセミナー これまで同和問題の歴史を主なテーマとして実施してきたが、令和3年度から様々な人権問題をテーマとして実施した。									
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	受講生の中から、人権擁護委員や市民懇談会市民担当者等、市の人権事業に参画される方が輩出されるなど、学習成果が地域の中で反映されてきていると考える。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	なし							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
小中学校や保育所の新任職員の研修の場としても活用されているなど、講座ニーズはあるため、魅力ある学習内容を検討していく。いきいき人権ライフセミナーでは、受講生増加を狙うため、令和3年度から講師を変更した。										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄					
一人ひとりが、主体的な人間として、最大限に人権が尊重され、希望をもって、幸せを求めることができるよう、昭和56年から「教育がねらうもの講座」として、開設された事業を引き継いで、平成17年度から「学びをつなぐ講座」として開設されている					平成28年度から、「いきいき人権ライフセミナー」と「学びをつなぐ講座」を2つの事業を1つの事業「みんなで学ぶ人権・同和問題講座事業」に統合し、「基本編」と「実践編」として、講座を開催するものとした。					

事務事業名 コミュニティセンター主催事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：654

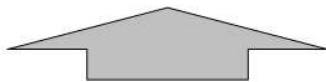
施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090602-16-00
基本事業：	01	ニーズに応じた学習機会の充実	担当部	教育部
基本事業の成果指標	生涯学習講座の充足度 市公式ホームページ（生涯学習情報ページ）アクセス件数 生涯学習情報（市広報紙）利用割合		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成06年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
市民			コミュニティセンターが実施する講座に対し、その講師謝金を支出する。 【事業の手続き】 コミュニティセンターからの申込 開設決定（審査） 講座の実施 報告書提出 講師謝金支出 【講座の内容】 社会的問題やコミュニティに関する人材の育成や地域について理解を深める内容 【募集方法】 市民に対しては、市広報・地域の回覧版等により、参加を呼びかけている。							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										
コミュニティセンターにおける主催講座の開催を促し、学習支援の推進を図ることにより、市民ニーズに応じた学習機会が提供される。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標	
講座開催回数		回	205	265	600	600			600	
受講者数（延べ人数）		人	2,809	3,317	16,000	16,000			16,000	
5. コスト										
事業費		計	千円	1,194	1,547	2,483	2,212			
		国	千円		0	0	0			
		県	千円		0	0	0			
		地方債	千円		0	0	0			
		その他	千円		0	0	0			
一般	千円	1,194	1,547	2,483	2,212					
正職員人工数		人工	0.1	0.2	0.2					
正職員人件費		千円	803	1,584	1,546					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	1,997	3,131	4,029	2,212				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		令和3年度は、コロナ禍の中でも徹底した感染防止対策により昨年より多く講座の開催することができた。地域ニーズや課題を検討し人材育成講座を企画運営しているため、地域の期待は大きい。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	あり	類似事業として自治公民館主催事業があるが、当事業は、地域コミュニティ単位での講座を企画することにより、コミュニティ事業を円滑に行うためのつながりづくりに繋がっており、自治公民館とコミュニティセンターの特色を活かし、事業展開を行う。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし							
成果向上余地	大きい									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
コミュニティ運営協議会と連携した講座を行うなど、コミュニティセンターと協力し、講座を受講した人が自分の学習だけでとどまってしまうのではなく、ボランティアや指導者など、地域の人材として活動していけるよう、引き続き講座を企画する。										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）						備考・特記事項 or 進行管理欄				
市民の様々なニーズに応じた学習機会を提供するため、コミュニティセンターにおける主催講座の開催の支援を実施している。						地域コミュニティを支える人材の育成も視野に講座を開催				

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090602-03-00
基本事業：	01	ニーズに応じた学習機会の充実	担当部	教育部
基本事業の成果指標	生涯学習講座の充足度 市公式ホームページ（生涯学習情報ページ）アクセス件数 生涯学習情報（市広報紙）利用割合		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習推進・青少年



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成13年度 ~	新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市民（小学生以上）		参加者から受講料を徴収し、生涯学習のきっかけづくりとして、カルチャー講座事業を生涯学習センターを中心に開催している。 【短期講座】ヨガ、ピラティス 【1day(1日体験)講座】料理、手芸・工芸、暮らし・実用等 【パソコン講座】Word・Excel等の実務講座、 スマホ・タブレットの活用講座等 【歴史講座】				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
市民の学習ニーズに応じた学習の機会が提供され、市民の学習活動、特に、生涯学習のきっかけづくりとして行うこと。						
4. 成果（簡易評価は未記入）						

成果指標名称	単位	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
受講者数	人	448	370	850	850			1,000
受講者延べ人数	人	1,489	578	3,000	3,000			3,000

5. コスト									
事業費	計	千円	1,734	671	2,128	749			
	国	千円		0	0	0			
	県	千円		0	0	0			
	地方債	千円		0	0	0			
	その他	千円	1,734	666	1,582	435			
一般	千円		5	546	314				
正職員人工数	人工		0.1	0.2	0.2				
正職員人件費	千円		803	1,584	1,546				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円		2,537	2,255	3,674	749			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている	令和3年度から定期講座を廃止したため、受講者数が減少した。								
どちらかといえばあがっている									
あがっていない（停滞・低下）									

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	あり	生涯学習推進のため、「学びのきっかけ」を多くの市民に提供している。令和3年度より定期講座を閉講し、自主学習グループに移行することで、学びが継続されている。					
手段効率化余地	あり	コスト削減余地	あり						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	大きい								

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	--	--	--	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
令和3年度に全短期講座を見直すなど、より参加しやすい講座スタイルを検討、ニーズに合った講座の計画する。また、パソコン・スマホ講座の数を増やし、市民のデジタルディバイド解消に努める。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
生涯学習センター開館にあわせ、高度化・多様化する市民の学習ニーズに応じた学習機会を提供している。									

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090602-14-00
基本事業：	01	ニーズに応じた学習機会の充実	担当部	教育部
基本事業の成果指標	生涯学習講座の充足度 市公式ホームページ（生涯学習情報ページ）アクセス件数 生涯学習情報（市広報紙）利用割合		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和46年度 ~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
乳幼児・児童・生徒を持つ保護者			平成31年度より、家庭教育事業がより親しみやすいものとなるよう「はぐくみキャンパス」という通称を設け、家庭教育学級 つばみカフェ 公開講座 講師派遣の4本立てで実施している。学習内容は子育てに関すること、親自身の課題に関すること、豊かな市民性を身につけることを学ぶ。家庭教育学級は各小・中学校（吉木・山家小除く）に家庭教育学級を設置し、学級運営は保護者が主体的に行っている。つばみカフェは乳幼児の子を持つ保護者向けに学習会を実施し、小学校の家庭教育学級に繋げている。公開講座は日中の学習会に参加できない保護者を対象に実施している。講師派遣は子を持つ保護者が地域の中で家庭教育を学べるよう派遣する。周知方法は、家庭教育学級は募集チラシを各小・中学校に配付、その他は市広報・HPに掲載している。							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										
親として子どもの発達段階に応じた家庭教育に関する学習を行うことで、家庭の持つ教育力の向上を図る。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	目標	
			実績	実績	当初	要求	計画	計画		
学級生数		人	286	171	470	470			400	
延べ参加者数		人	0	321	2,500	2,500			2,000	
5. コスト										
事業費		計	千円	37	502	976	975			
		国	千円	0	0	0	0			
		県	千円	0	0	0	0			
		地方債	千円	0	0	0	0			
		その他	千円	0	0	0	0			
一般		千円	37	502	976	975				
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1					
正職員人件費		千円	803	792	773					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	840	1,294	1,749	975				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている		令和3年度、家庭教育学級は開催場所を学校から生涯学習センターとして実施した。つばみカフェは家庭教育学級生が運営に関わり、小学校の家庭教育学級に繋げることができた。また、公開講座は男女共同参画課と共催で開催した。								
どちらかといえばあがっている										
あがっていない（停滞・低下）										
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	あり	類似事業として「乳幼児家庭教育学級」を各保育所に開設しており、保護者会との連携をとりながら、各学級で年間3回程度学習会を開催している。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
年間スケジュールの見直し等、参加者の負担を減らす努力をすることや、学級生が参加したくなるような内容を企画し、より多くの保護者が参加できるよう検討と内容の充実を図る。										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）						備考・特記事項 or 進行管理欄				
家庭教育学級は平成30年から連絡会を廃止し、学級生の負担軽減を図り学級運営マニュアルを作成したことで自主的な運営になった。乳幼児家庭教育学級は4保育所に設置。その他の乳幼児を持つ保護者の学びの場として「つばみカフェ」を令和元年度から家庭教育学級生と開催し家庭教育学級へ繋げている。						学習の成果と課題を明確にし、次年度の活動の指針とするために紙媒体で文集「あゆみ」を作成していたが、電子化し市のHPに掲載し、募集に繋げている。				

事務事業名 筑紫南コミュニティセンター図書室運営事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：1345

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090602-15-00
基本事業：	01	ニーズに応じた学習機会の充実	担当部	教育部
基本事業の成果指標	生涯学習講座の充足度 市公式ホームページ（生涯学習情報ページ）アクセス件数 生涯学習情報（市広報紙）利用割合		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成15年度 ~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市民			筑紫南コミュニティセンター図書室運営委託 ・図書室の開館業務 ・図書室主催事業の企画、実施（おはなし会、親子で参加できる講座等） ・地域行事等での図書イベント実施 ほか						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
筑紫南コミュニティセンター図書室の運営事業を活用した学習活動や地域住民の交流により、地域づくり・子どもと保護者の健全育成が促される。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標
図書室利用者数		人	5,813	6,842	18,000	18,000			18,000
貸出冊数		冊	14,278	16,568	25,000	25,000			25,000
5. コスト									
事業費		計	千円	2,148	2,066	2,061	2,227		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般		千円	2,148	2,066	2,061	2,227			
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費		千円	803	792	773				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	2,951	2,858	2,834	2,227			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		新型コロナウイルス感染症の影響により、5/12～6/20、8/7～9/30の間は閉室し、中止した主催講座も多かった。利用者数・貸出冊数は令和元年以前に比べて減少しているが、2年度に比べると回復傾向にある。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	団体として会員（とくに若い世代）を増やすため、効果的に活動をPRする方法や他の事業、団体との連携等を検討していく必要がある。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	大きい								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
図書室の利用増加及び団体との協働事業のあり方について、引き続き検討する。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
筑紫南コミュニティセンター建設時、建設委員会で検討した結果、図書室を設置し、地元ボランティアで運営することを確認していた。平成15年4月、筑紫南コミュニティセンターを開館し、図書室に図書司書を配置、平成20年度から図書室の運営を地元ボランティアで実施。令和5年度は、図書室の運営を地元ボランティアで実施する。									

事務事業名 市婦人会補助事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：616

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090601-07-00
基本事業：	02	生涯の学びを地域で活かせる人づくり	担当部	教育部
基本事業の成果指標	地域で活動する人材の育成人数 生涯学習ボランティア新規登録数 自らの知識や能力を活かし、地域で活動している市民・団体の数		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和47年度 ~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
地域婦人会及び地域婦人会会員			女性団体として自立・自己改革を目指すリーダー養成・リーダー研修会等を行っている地域婦人会に対して、運営補助として補助金を交付する。 【活動内容】 会員の資質や能力が向上するよう「リーダー研修」等を実施する一方で、以下の講座等の活動を行っている。 (市民大学講座, 青少年健全育成支援事業, 等)						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			地域婦人会の活動を支援することにより、女性の社会参加が促され、女性の地域への進出が活発化することにより、まちづくりの推進に貢献する。						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標
会員数		人	130	94	300	300			350
研修参加者数		人	0	22	90	90			100
5. コスト									
事業費		計	千円	122	122	495	495		
		国	千円		0	0	0		
		県	千円		0	0	0		
		地方債	千円		0	0	0		
		その他 一般	千円	122	122	495	495		
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費		千円	803	792	773				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	925	914	1,268	495			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	新型コロナウイルス感染症の影響により、会員数は減少傾向にある。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	あり	類似事業として、「市民（旧女性）大学講座補助金」等の地域婦人会を支援する事業があるが、それぞれその目的別に補助金を拠出している。 令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルスにより活動自粛があったため、例年よりも減額された補助金申請が行われた。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
令和元年度に地域婦人会の運営体制の変更等を行い、会員数の増加に向け事業を推進していることから、今後も活動を支援するとともに、会員の高齢化や運営に関する課題について注視していく。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
女性が自発的な学習意欲に基づき、豊かな人間性を培うと共に、その資質や能力を向上させる為に行う各種の学習を高める活動を昭和47年の筑紫野市中央公民館開館に併せて活動が始まった。									

事務事業名 自治公民館主事設置補助事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：621

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090601-10-00
基本事業：	02	生涯の学びを地域で活かせる人づくり	担当部	教育部
基本事業の成果指標	地域で活動する人材の育成人数 生涯学習ボランティア新規登録数 自らの知識や能力を活かし、地域で活動している市民・団体の数		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和43年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
自治公民館主事に対して報酬を支出している自治公民館の館長		自治公民館主事報酬として年額72,000円以上を支出している自治公民館の館長に対し、年額36,000円を補助する。（1公民館当たり） 自治公民館主事報酬として年額48,000円以上72,000円未満を支出している自治公民館の館長に対し、年額24,000円を補助する。（1公民館当たり）				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		自治公民館事業の企画立案や実施運営の実務を行う。 （例：主催講座、文化祭、地域の年間行事、部屋の予約受付、広報活動など）				
地域における社会教育活動の振興を図るため、自治公民館主事を設置することで、生涯学習活動・地域活動が活性化し、自治公民館が地域の交流の場や地域活動の拠点になること。						

4. 成果（簡易評価は未記入）								
成果指標名称	単位	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
主事手当を支給している公民館数	館	82	82	86	86			88

5. コスト								
事業費	計	千円	2,652	2,562	2,700	2,700		
	国	千円			0	0		
	県	千円			0	0		
	地方債	千円			0	0		
	その他	千円			0	0		
一般	千円	2,652	2,562	2,700	2,700			
正職員人工数	人工		0.1	0.1	0.1			
正職員人件費	千円		803	792	773			
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円		3,455	3,354	3,473	2,700		

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）	
あがっている	9割以上の公民館に主事が置かれ、高い水準で支給が続いている。
どちらかといえばあがっている	
あがっていない（停滞・低下）	

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）			
対象動向	維持	類似事業	なし
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし
成果向上余地	中程度		

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）	改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）	
主事を設置済みの自治公民館については、この補助金の交付により、主事報酬の維持および自治公民館の活動を充実させる一助となっている。今後も、本補助金の趣旨・目的について各行政区の理解が得られるよう、自公連総会、館長・主事等研修会等の機会を通じて、継続的に啓発を行っていく。	自治公民館主事手当を支給している館に対して、規定の金額を補助金として交付することで、自治公民館の活動を充実させる一助になっています。補助金については、活動実績報告書等の内容等を注視しながら、活動に見合った金額の設定に努めています。

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）	備考・特記事項 or 進行管理欄
地域における生涯学習・社会教育活動や地域活動の振興を図るため、自治公民館主事の設置を目的に、昭和43年度から補助を実施した。	平成29年度に条例を一部改正。区長制度の見直しに伴い、申請・補助対象者を行政区長から自治公民館長に改めた。平成31年度からコミ協との一体化に伴い「自治公民館主事の設置補助に関する条例」に全面改正し、運用開始。

事務事業名 ちくしの高年大学事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：636

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090602-06-00
基本事業：	02	生涯の学びを地域で活かせる人づくり	担当部	教育部
基本事業の成果指標	地域で活動する人材の育成人数 生涯学習ボランティア新規登録数 自らの知識や能力を活かし、地域で活動している市民・団体の数		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

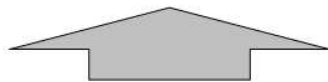
計画年度	平成13年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
60歳以上の市民			60歳以上の市民を対象に、生涯を通して楽しめる生きがいを見つけるため、学習の場を提供する。 対象：60歳以上の市民 場所：生涯学習センター 日程：5月～2月、原則第1・3火曜日（最大受講期間は、4年間） 受講料：無料（教材費及び館外研修費等は、自己負担）						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			【内容】 教養講座：教養を高めるための講座等（11月16日実施のみ） 専門講座：郷土史、合唱、絵画等から選択（中止） クラブ活動：ボランティア実践のための技術修得の学習（中止） 社会参加活動：夏休み工作教室、高齢者サロン訪問（中止） その他：交流会、館外研修（中止）						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標
受講者数		人	62	62	70	70			70
受講修了者のうち地域等で活動している人の割合		%		0	100	100			90
5. コスト									
事業費		計	千円	19	1	320	320		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
		一般	千円	19	1	320	320		
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費		千円	803	792	773				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	822	793	1,093	320			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため新規募集は行わず、教養講座のみ実施した。 「地域等で活動している人の割合」R01～03実績値については、新型コロナウイルス感染症のため調査していない。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし		本事業はカルチャー事業と地域の人材育成事業を重ねていることを踏まえて、近年60～80人の受講生が集まっていることから、受講生の学習に対する意識は高い。				
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	大きい								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
高齢者を対象とした事業の在り方について検討を行う。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
今後の高齢社会に向けて、高齢者が豊かな経験を生かして、社会参加を实践するとともに、受講生相互の親睦を深める学習の場を提供するため、平成13年度から事業を開始した。									

事務事業名 生涯学習ボランティア事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：646

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090602-10-00
基本事業：	02	生涯の学びを地域で活かせる人づくり	担当部	教育部
基本事業の成果指標	地域で活動する人材の育成人数 生涯学習ボランティア新規登録数 自らの知識や能力を活かし、地域で活動している市民・団体の数		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成10年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市民		筑紫野市ボランティアバンクの会に委託し、市民からのボランティアの派遣及び紹介依頼の相談・派遣等を行う。				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		ボランティア登録・派遣・紹介 市民からの相談・申込 内容確認・活動依頼（コーディネート） 派遣費用（交通費・1日700円）については、平成30年度より廃止（無償化）。				
市民主体のまちづくりを実現するために、地域に根ざしたボランティアの育成やボランティア登録者を拡大し、生涯学習ボランティア事業を効果的に展開することで、市民が主体的に学び支えあう生涯学習社会の実現を目指す。		地域活動支援事業（各コミュニティセンターでの「このゆびとまれ」や学習会・交流会、子どもの居場所づくりに関する取り組み等を実施） 広報・啓発（HPでの情報発信、会報の発行、活動PR等） 研修事業（市民・会員を対象とした育成研修、リーダー養成研修） 生涯学習フェスティバルへの参画				

4. 成果（簡易評価は未記入）								
成果指標名称	単位	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
ボランティアバンク利用者数	人	17,351	10,055	48,000	48,000			50,000
ボランティアバンク活動者数	人	313	299	1,800	1,800			2,000
5. コスト								
事業費	計	千円	3,060	2,892	2,898	2,898		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	3,060	2,892	2,898	2,898			
正職員人工数	人工	0.1	0.2	0.2				
正職員人件費	千円	803	1,584	1,546				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	3,863	4,476	4,444	2,898			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）								
あがっている	派遣費の廃止（平成30年度～）や高齢化等に伴い、利用者数・活動者数が減少傾向となっている。令和3年度は新型コロナウイルスの影響により、5月12日～6月20日、8月5日～9月30日の間は派遣活動を停止していた。							
どちらかといえばあがっている	また、コロナ禍でボランティアの派遣先が少なく、人数制限もあり、利用者数・活動者数が減少した。							
あがっていない（停滞・低下）								

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）								
対象動向	維持	類似事業	なし	ボランティア事業は地域活動において重要であるため、利用者数、活動者数の増加に向けて事業を行う必要がある。				
手段効率化余地	あり	コスト削減余地	なし					
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし					
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり					
成果向上余地	大きい							

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	--	--	--	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）								
登録者の中でも活動頻度にばらつきがあるため、活性化に向けて検討・助言等行っていく。また、更なる業務の効率化についても検討していく。								

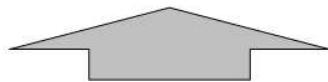
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				備考・特記事項 or 進行管理欄				
平成10年度から、ボランティア紹介事業として始め、平成12年度からボランティア派遣事業とした。平成18年度から、ボランティアバンクの会に事業を委託している。								

事務事業名 パープルプラザフェスタ事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：649

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090602-11-00
基本事業：	02	生涯の学びを地域で活かせる人づくり	担当部	教育部
基本事業の成果指標	地域で活動する人材の育成人数 生涯学習ボランティア新規登録数 自らの知識や能力を活かし、地域で活動している市民・団体の数		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成13年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市民、地域活動・学習活動団体		生涯学習フェスティバルは、「パープルプラザフェスタ」「カミーリヤフェスティバル」「スポレクフェスタ」「ハーモニーフェスタ（文化会館）」の総称。 令和4年度からは「生涯学習フェスティバル」統一名称を使用終了とする。				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		【生涯学習課所管：パープルプラザフェスタ】 開催日：10月第4月曜日の土・日の2日間 内容：作品展示、ステージ発表など 備考：主要5団体で実行委員会を結成、企画運営を行う。人権政策・男女共同参画、教育政策、農政に関する行政の啓発活動も実施。 令和3年度は新型コロナウイルス感染症状況を踏まえ、代替案として10月8日～10月20日に生涯学習センター利用団体作品展を開催した。				
学習グループが、日頃の学習の成果を発表することができ、多くの市民の学習意識が向上する。						
4. 成果（簡易評価は未記入）						

成果指標名称	単位	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
来場者数（パープルプラザ）	人	0	0	10,000	10,000			10,000
参加団体数（パープルプラザ）	団体	0	0	130	130			130

5. コスト									
事業費	計	千円	4	1	2,291	1,981			
	国	千円		0	0	0			
	県	千円		0	0	0			
	地方債	千円		0	0	0			
	その他	千円		0	0	0			
	一般	千円	4	1	2,291	1,981			
正職員人工数	人工		0.4	0.5	0.3				
正職員人件費	千円		3,212	3,961	2,318				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円		3,216	3,962	4,609	1,981			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている	新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した。								
どちらかといえばあがっている									
あがっていない（停滞・低下）									

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	増加	類似事業	なし	市民協働のフェスティバルにしていくために、実行委員会の中で、より具体的な協議を行い、企画案を検討していく必要がある。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	大きい								

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）	改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）

参加団体の高齢化等によりフェスティバルへの参加が難しいといった課題があるが、市民の学習意識を向上するためのイベントを実施できるように継続して実行委員会で検討していく。	
-------------------------------------------------------------------------------------	--

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）

生涯学習センター閉館の平成13年度から生涯学習フェスティバルを開催し、平成14年度から文化会館、カミーリヤ、農トレと開催時期をずらして開催することにした。 令和4年度からは生涯学習フェスティバルの統一名称を終了する。	備考・特記事項 or 進行管理欄 市民団体との協議を充分に行いながら、市民協働のフェスティバルに変えていくために、平成23年度からそれぞれのフェスタで実行委員会を結成し、細かな対応ができるようにした。
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

事務事業名 にほんご教室事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：1675

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090602-20-00
基本事業：	03	異文化理解の推進	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	国際交流が推進されていると思う市民の割合		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成25年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
本市及び近郊在住の外国人			学習者（様々な国の外国人）に対応したプログラム（カリキュラム）を基本に、スタッフ（ボランティア）による日本語の学習を進める。 事業概要 開催日時：毎週火曜日10時から12時まで。 （第5週火曜日、祝日、年末年始、お盆を除く） 開催場所：生涯学習センター視聴覚室 定員：20人/1回 利用料金：100円/1回 方法：マンツーマンを基本							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										
本市及び近郊で暮らしている外国人が、日常生活を営むうえで必要な日本語力を習得するとともに、日本語教室を通じて地域の人との交流、対話を重ねることで相互理解を深め、すべての人にとって暮らしやすいまちとなることを目的とする。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標	
日本語学習の開催回数		回	17	21	44	44			41	
平均受講者数		人	5	5	10	10			10	
5. コスト										
事業費		計	千円	43	39	40	40			
		国	千円	0	0	0	0			
		県	千円	0	0	0	0			
		地方債	千円	0	0	0	0			
		その他	千円	0	0	0	0			
一般	千円	43	39	40	40					
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1					
正職員人件費		千円	803	792	773					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	846	831	813	40				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	市ホームページ、広報、パンフレットの設置、市民課前ロビーモニターでの教室案内などにより、日本語を学びたい外国人学習者の掘り起こしにつながった。例年、日本語を教えるだけでなく、教材を通じて日本の風習を伝えたり、七夕やお花見などの季節イベントを実施し、外国人の日本や本市への理解が進む学習を行っているが、令和3年度は新型コロナウイルスのため教室実施回数が減ったが、コロナ禍でもできるやり方でイベント開催や交流する機会を設けた。 学習者、スタッフ共に、コロナ禍を理由に参加が難しくなり減少している。									
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	現スタッフ（ボランティア）の高齢化に伴い、体調不良や諸事情による休みが増えており、スタッフの確保が課題となっている。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり							
成果向上余地	大きい									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
成果指標を日本語学習の開催回数から、学習者等へのアンケートによる満足度に変更する。										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄					
本市及び近郊在住の外国人の増加に伴い、日常生活等に欠かせない日本語習得のニーズが予想されるとともに、日本語を教えるスタッフ（ボランティア）の確保ができたことから、開設の運びとなった。（平成25年4月開設）					対応するスタッフ数から、1回の学習者（外国人）数を20名を限度とし、学習生の登録制度により、スムーズな教室運営を行っている。					

事務事業名 自治公民館設置補助（修繕・改修）事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：615

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090601-17-00
基本事業：	04	社会教育施設の充実	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	社会教育施設の満足度		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1．対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2．手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
行政区、自治公民館			筑紫野市自治公民館設置補助条例に基づき、自治公民館の修繕・改修に対する費用の補助を行う。 工事費から10万円を差し引き、残額の3分の2以内を補助する。						
3．意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
自治公民館が地域のまちづくりや生涯学習などの活動拠点施設となっている。									
4．成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標
老朽化した小地区公民館数		件	26	28	28	28			
5．コスト									
事業費		計	千円	5,795	21,109	8,482	9,138		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他 一般	千円	5,795	21,109	8,482	9,138		
正職員人工数		人工	0.3	0.35	0.35				
正職員人件費		千円	2,409	2,772	2,705				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	8,204	23,881	11,187	9,138			
6．成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		前年度、計画書が提出されていた事業と緊急対応が必要な事業を実施している。 令和3年度は、16箇所の自治公民館に対して設置補助（修繕・改修）を行った。							
7．評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	公民館の老朽化に伴い、申請件数が増加傾向にある。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	基礎的事務事業	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8．改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）									
昭和42年度に条例制定 条例及び施行規則の改正により、補助対象面積、補助基準単価、補助上限額の見直しを反映したものとなっている。									
備考・特記事項 or 進行管理欄									

事務事業名 図書館運営事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：700

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090609-03-00
基本事業：	05	読書活動の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	図書館の年間利用者数 図書館の設備・資料の満足度		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	文化振興・図書館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
市民、在勤、通学者、福岡都市圏住民及びすべての来館者			市民図書館は、平成2年11月に開館し、市民が身近な生涯学習の場として、図書資料や情報等の提供を行っている。さらに、ブックスタートや講座、講演会等を行うとともに、遠隔地40ヶ所に移動図書館車（つくしんぼ号）を運行し、市民一人ひとりが読書の楽しさや必要性を知っていただくよう努めている。 ・開館時間 午前10時～午後6時（ただし、金曜日、土曜日は午後8時まで） ・休館日 月曜（祝日を除く）、月末最終水曜日、特別整理期間、12月28日から翌年1月4日 ・主催講座等 8回 ・運営方法 運営の一部を民間事業者に委託し運営している。							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										
読書に親しみ、広く本の世界に触れることで、情操をたくくみ、知識や思考力を育成する（乳幼児から青少年） 社会生活上必要な情報を得ることと調査研究に資する（全ての世代） 娯楽、教養、レクリエーションに資する（全ての世代）										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標	
貸出総冊数		冊	644,293	590,982	725,000	725,000				
新規の登録者数		人	2,235	2,376	2,500	2,500				
5. コスト										
事業費		計	千円	96,661	78,843	81,874	81,915			
		国	千円	0		0	0			
		県	千円	0		0	0			
		地方債	千円	0		0	0			
		その他	千円	25	23	11	25			
一般	千円	96,636	78,820	81,863	81,890					
正職員人工数		人工	1	1	1	1				
正職員人件費		千円	8,029	7,921	7,728					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	104,690	86,764	89,602	81,915				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		<状況>市民図書館における新規登録者数は増加しているが、貸出総冊数は減少している。 <原因>新型コロナウイルス感染拡大防止対策のために、令和3年5月、8月に臨時休館となったことから利用者が減少した。子どもの読書離れ、活字離れが本市においても現れていると考えられるが、全国的な傾向であり、国においても文字・活字文化法や子どもの読書活動の推進に関する法律を制定し、読書力の向上に努めていることから、本市においてもより積極的な事業を検討する必要がある。 <成果指標>令和4年度は、令和3年度と同じ目標とした。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	学校図書室支援、ボランティア育成、地域等、更なる連携を進めるためには現在の支援体制の強化が求められる。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
・老朽化しサポート保守が停止する図書館システムサーバ等の更新が必要。 ・令和4年9月より電子図書館を導入										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）						備考・特記事項 or 進行管理欄				
昭和62年まちづくりプロジェクトが市長に対し提言書「筑紫野市立図書館建設について」を提出。平成2年11月中央公民館図書室を閉鎖し、現在の図書館を開館した。開館時間は火～日、10時から18時（金、土は20時）貸出型の館である。滞在型への要望があるが、構造上変更は難しい。										

事務事業名 図書・視聴覚資料購入事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：701

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090609-06-00
基本事業：	05	読書活動の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	図書館の年間利用者数 図書館の設備・資料の満足度		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	文化振興・図書館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
すべての市民、在勤、通学者、福岡都市圏住民及びすべての来館者。			常に新しい情報を提供するための図書購入及び資料収集、保存、提供事業を推進する。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			根拠法令 ・ 図書館法 ・ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ・ 筑紫野市教育委員会事務局及び職務執行規則 ・ 筑紫野市立図書館設置条例						
子どもの読書推進を目的に、乳幼児から青少年までの世代に対し、本の世界に親しむことができるよう豊富な資料をそろえる。 全ての世代に対し、知る権利と学ぶ権利を保障するため新鮮な資料をそろえ、娯楽・レクリエーション・調査研究に資する。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標
貸出冊数		冊	644,293	590,982	724,598	724,598			
5. コスト									
事業費		計	千円	26,556	23,846	26,610	27,123		
		国	千円	0		0	0		
		県	千円	0		0	0		
		地方債	千円	0		0	0		
		その他	千円	11,820	6,243	11,820	16,243		
一般	千円	14,736	17,603	14,790	10,880				
正職員人工数		人工	0.2	0.2	0.2	0.2			
正職員人件費		千円	1,606	1,584	1,546				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	28,162	25,430	28,156	27,123			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		<状況>市民図書館における市民一人当たりの蔵書冊数が減少している。 <原因>破損、汚損本及び内容が古くなる等、利用に適さない本を廃棄するため、蔵書冊数の変動は少ない。 <成果指標>令和4年度は、令和3年度と同じ目標とした。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）			改善方向性		維持 見直し 廃止 事業終了				
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）									
社会教育法の規定する市民の学習の場としての施設を充実するため、S6 2年まちづくりプロジェクトが市長に「筑紫野市立図書館建設について」提言書を提出。H2年中央公民館図書室を閉鎖し図書館を開館した。			備考・特記事項 or 進行管理欄						

事務事業名 子どもの読書活動推進事業

出力日：令和05年04月27日

キーコード：1632

施策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090609-11-00
基本事業：	05	読書活動の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	図書館の年間利用者数 図書館の設備・資料の満足度		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	文化振興・図書館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成23年度 ~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
0歳から概ね18歳以下の子どもとその保護者、学校、読書団体			第二次筑紫野市子どもの読書活動推進計画に基づき、子どもの読書環境の整備に関する各種事業を実施するもの。 小学生読書リーダー・中学生読書サポーター養成講座：学校に読書を広めてもらうことを目的に講演や本のPOP作り体験などの講座を毎年開催。 子どもの読書活動関係団体連絡会：読書活動関係団体の連携体制を確立するための会議を平成30年度から開催。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
子どもの読書活動を推進し、健全な育成を図る。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	02年度 実績	03年度 実績	04年度 当初	05年度 要求	06年度 計画	07年度 計画	目標
子ども1人当たりの児童書の貸出冊数		冊	23	23.3	22	22			22
学校図書館における1人あたりの貸出冊数		冊	48.7	46.7	50	50			50
5. コスト									
事業費		計	千円	0	116	223	223		
		国	千円	0		0	0		
		県	千円	0		0	0		
		地方債	千円	0		0	0		
		その他	千円	0		0	0		
		一般	千円	0	116	223	223		
正職員人工数		人工	0.2	0.2	0.2	0.2			
正職員人件費		千円	1,606	1,584	1,546				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	1,606	1,700	1,769	223			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		<状況>市民図書館における児童書の貸出冊数が増加している。 <原因>新型コロナウイルス感染拡大防止対策のために、令和3年4月、8月に臨時休館となり、様々なイベントが中止となったが、冬に実施した本を読んだ冊数に応じて景品がもらえる子ども向けイベントが大変好評だったことが増加の要因と思われる。 <成果指標>令和4年度は、令和3年度と同じ目標とした。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	あり	類似事業の「図書館運営事業」において、以下の取り組みを実施。 ブックスタート：赤ちゃんに絵本をプレゼントする活動。毎月第3火曜日と6月・12月の日曜日に読み聞かせや絵本の配布を実施。 読書講座：市民図書館で読書イベント、講演会、読み聞かせ会などを毎年実施。 学校向け配本サービス：市民図書館の本をすべての小中学校に配本と回収を行うサービスを平成30年12月から試行開始。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了	
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
コロナ禍にあっても有効なイベント開催方法の検討が必要。				必要性 全国的に見られる子どもの読書離れ、活字離れが本市においても現れていることから、子どもが読書習慣を身に付け、将来にわたって読書の楽しさを感じることができるよう継続して事業を進める必要がある。					
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				備考・特記事項 or 進行管理欄					
国の「子どもの読書活動の推進に関する法律」や県の「福岡県子ども読書推進計画」に基づき、平成24年に「筑紫野市子どもの読書活動推進計画」を策定し、平成28年に第二次計画を策定した。									